

# 甲府市および韮崎市における蚊類の捕集調査(2008)

高橋 史恵

Studies of the Distribution and the Seasonal Occurrence of Mosquitoes  
in Kofu Area and Nirasaki Area (2008)

Fumie TAKAHASHI

キーワード：ライトトラップ法，アカイエカ群，ヒトスジシマカ，ヤマトヤブカ，WNV媒介蚊

## はじめに

ウエストナイル熱をはじめデング熱，チクングニア熱などの蚊が媒介者となる感染症患者の発生が世界各地で毎年報告されている。ウエストナイル熱ウイルス(以下WNV)をはじめとするこれらの感染症が国内に侵入した場合，蚊の発生状況を把握することは予防対策に不可欠であることから当所においても2005年から甲府市および周辺地域において蚊の捕集調査を開始した<sup>1,2)</sup>。甲府市内の調査定点は2008年も引き続き当所と民家の2箇所とした。甲府市以外の定点は韮崎市内に選定し，峡北合同庁舎敷地内および2軒の民家の計3箇所において調査を実施した。

## 調査方法

ライトトラップ法(以下LT)，直接採取法，オビトラップ法(以下OT)を甲府市および韮崎市内にて実施した。また，今年度からはじめて甲府市内北口および当所敷地内の計2箇所において，人囿法による捕集網での蚊類成虫の捕集をおこなった。また，当所構内において2007年の調査で幼虫発生が確認されたプラスチック製容器を今回も同じ場所に設置し，捕集調査を実施したので併せて報告する。

使用機器等については既報<sup>1)</sup>を参照されたい。捕集網は雑貨屋などで市販されているものを使用した。LTは今回もドライアイスを使用しないで稼働させた。

### 1. LT法

今回の設置場所は甲府市と韮崎市とし，当初は各1定点

にて調査を開始したが，韮崎の捕集成績が上昇しないことから，韮崎市内の民家にLT1台を設置し稼働させた。

甲府市においては，2006年から調査定点として選定した，北部(北口)の民家敷地にて引き続き調査をおこなった。周辺環境の特記すべき変化はないが，植木鉢受け皿の溜まり水の除去を定期的に行い，隣接する民家庭の池では昨年より引き続きメダカを飼育している。毎週水曜日の午後6時から翌朝の午前7時(累計13時間)稼働させた。設置場所は前回の調査と同様に，地上から高さ2mの軒下とした。調査は5月8日から開始した。

韮崎市の定点を峡北合同庁舎(本町)敷地内とし，1階西側の非常階段下に設置した。周辺は環境整備がされた広い駐車場が隣接し，多様な樹木が植えられ，西側には樹木が繁茂した小高い丘が存在する。流れの早い水路が西側の隣接した道路脇にあり，東側には体育館があり，緑に囲まれた環境であった。また南側には国道20号線があり，その先には釜無川が流れている。トラップは高さ約1.7mに設置し，毎週水曜日の午後4時から翌朝午前9時30分(累計17.5時間)稼働させた。

韮崎市民家(岩下)(以下民家A)は峡北合同庁舎から東北に約2.5km移動した場所にある。軒下(高さ2m)にトラップ1台を設置し6月24日から稼働させた。周辺環境は竹林や畑が隣接し，犬が屋外にて飼育されている。月1回不定期に，午後6時から翌朝午前6時(累計12時間)稼働させた。捕集した成虫は，クロロホルムにて殺虫後，実体顕微鏡にて同定<sup>3,4)</sup>を実施した。今回の調査においても，いずれの定点において2週間連続で捕集がなされなかった時点で捕集調査終了とした。

## 2. 直接採取法

甲府市北口, 当所(甲府市富士見), 峡北合同庁舎, 韮崎市民家(穴山)(以下民家B)の4箇所において, 小水域に発生した幼虫を目視で確認された時点で, 柄杓にて捕集をおこなった(水量が少ない場合は, 全ての水を回収した)。飼育方法等は既報<sup>1)</sup>のとおりおこなった。

## 3. OT法

甲府市内当所構内2箇所, 甲府市北口, 韮崎市内民家A, 民家B各1箇所にはトラップを設置し, 週2回の間隔で幼虫の発生状況を観察し, 目視にて幼虫発生を確認した時点で回収後, マウス用固形飼料を餌として, 25 ℓの室内にて飼育した。羽化後の成虫は砂糖水で数日飼育後し, クロロホルムにて殺虫後, 同定を実施した。

## 4. 捕集網法(人囿法)

捕集網にて蚊成虫の捕集を実施した。定点は当所敷地内動物舎周辺, 甲府市北口民家敷地内の2箇所とした。

著者が平均20分間屋外に立ち, 寄ってきた成虫を捕集網で捕集する方法とした。人囿法では本来, 通常吸虫管にて, 吸血のため飛来した雌成虫を, ゴム管を吸引して捕集瓶に回収する方法であるが, テクニックが必要な捕集方法であったことから今回は捕集網を使用することとした。甲府市北口では主に休日に実施した。捕集時間帯は甲府市北口では午後3時から夕方にかけての日没前を中心に実施し, 当所では, 平日の午後4時頃を中心に約10分間野外に立ち捕集をおこなった。捕集した成虫はビニール袋に移し, クロロホルムにて殺虫後, 同定を実施した。

## 5. プラスチック製容器

プラスチック製容器(32mm×41mm×12mm)に一晩汲み置きした水道水を入れて放置した。定点は昨年の調査と同様に, 当所構内動物舎南側とした。調査期間中に自然に落下した数枚の落ち葉は取り除かず, 週2回定期的に目視で幼虫の発生の有無を確認し, 幼虫発生時には柄杓を用いて回収し, OT法と同様に飼育し, 成虫の段階で殺虫し同定をおこなった。また雨水が流入して水位が上昇して溢れる可能性がある場合は, 容器の半分の高さになる程度の水を別の容器に入れ, 検査室内で幼虫発生の有無を併せて観察をおこなった。当然ながら幼虫発育が確認されない場合は飼育を中止した。

## 結果と考察

### 1. LTでの捕集成績

(1)総捕集数, 捕集種および捕集数の推移

各定点の成績を表1から表3に示した。

総捕集数は甲府市北口では68頭, 峡北合同庁舎では32頭, 民家Aでは15頭であった。

調査期間および回数は甲府市北口では5月8日から12月3日の28回, 峡北合同庁舎は5月14日から11月19日の25回, 民家Aは6月24日から9月25日の5回であった。

次に各定点での捕集数の推移を図1に示した。甲府市と韮崎市峡北合同庁舎を比較した場合, 9月下旬からかなり近い捕集傾向がみられた。民家Aについては調査回数が他の定点と比較して少ないが, コガタアカイエカが一晩で9頭の捕集を経験した。捕集されない傾向は峡北合同庁舎と似ていたが, 調査回数が少ないため, 周辺環境との影響などは現在検討中である。

甲府市

捕集種は甲府市北口では, アカイエカ群 *Culex pipiens*, ヒトスジシマカ(*Aedes albopictus*), オオクロヤブカ(*Armigeres subalbatus*), ヤマトヤブカ(*Aedes japonicus*)の2属4種で, コガタアカイエカ(*Culex tritaeniorhynchus*)が0頭であった。過去の調査では, 2006年6頭, 2007年3頭と少数ながら採集されていた。また, 今回新たに生息が確認された種はなかった。捕集種の割合については図2に示したとおりアカイエカ群が過半数を超えた。2006年から2007年にかけての同定点での調査においても同じ傾向であった。また, ヒトスジシマカは25.0%を占め, 2006年の24.6%と同程度の捕集割合となった。

総捕集数も60頭台で過去2年間とほぼ同様な結果となった。

韮崎市

峡北合同庁舎では, ヒトスジシマカ, アカイエカ群, オオクロヤブカ, ハマダラカ亜属, コガタアカイエカの3属5種であった(表2)。甲府市での捕集開始から約1箇月後になって捕集されはじめたが, 空白期間が調査前半にはみられた。原因は不明である。峡北合同庁舎職員の話によると今季は所内で蚊に吸血される被害がなくなってきていることを教えられた。その後の調査においてヒトスジシマカが捕集され始めた頃に, 回収時に蚊に刺される経験を施設内でしたこと, および室内にて吸血される職員が出てきているという話を聞いた。捕集種の割合を図3に示した。ヒトスジシマカが約38%と最も多く, 次にアカイエカ群

と続いた。なお、ハマダラカ亜属については支脈の鱗片が完全な形を保持していなかったことから同定に至らず、亜属での表記としたことを追記する。

韮崎市内民家Aでの調査は、峡北合同庁舎での捕集成績の伸び悩みにより、急きょ設置をした。僅か計4回の捕集調査ではあったが、計15頭の蚊類が捕集され(表3)、多いときには一晩に11頭の成績となったことを経験した。この成績を得た時期は、甲府市の最多日に遅れること約1箇月後の8月下旬であった。峡北合同庁舎の同時期の成績は1頭であり、最多日は9月に入ってからで5頭となった。捕集種はコガタアカイエカ、アカイエカ群、ヒトスジシマカ、ハマダラカ属の一種の3属4種であった。

峡北合同庁舎と比較した場合、捕集回数が明らかに異なっており、直接比較することは困難であるが、オオクロヤブカが捕集されなかったことが異なっていた。捕集傾向がこれまでの調査で調査前半と後半にみられたことから推測すると、遅くとも6月から調査をおこなうことで捕集が可能となったことも考えられた。同じ韮崎市内の定点であっても捕集された蚊類の種類が異なる成績を得ることができ、貴重な経験となった。

## (2)月別の推移と種別の捕集傾向

各定点の月別の推移を図4, 5に示した。甲府と峡北合同庁舎では捕集開始時期にズレがあるが、捕集傾向は似ている結果となった。これに対して民家Aではアカイエカ群が平均的に捕集されている傾向が見られた。

### 甲府市

甲府市北口におけるアカイエカ群の過去2年間の成績では8月に空白期間が見られていたが、今回は4回設定した8月の調査で3回捕集がなされたことが特徴的であった。ヒトスジシマカは2006年の調査では6月から8月に、2007年は7月から9月に集中して捕集される傾向があったが、今回は捕集されない空白期間が5月下旬から10月中旬まで数回みとめられた。また、2006年の成績よりも捕集される期間が延長していた。オオクロヤブカは5, 6, 10, 11月の調査前半と後半の捕集となり、2007年の傾向と似ていた。ヤマトヤブカは散発的な捕集であった。4頭(2006)、1頭(2007)と捕集数は少ないが、「水槽」からの発生を確認したこともあり、今後も注意が必要な種であると思われた。

### 韮崎市

韮崎市峡北合同庁舎では、ヒトスジシマカは7月下旬から10月上旬まで捕集された。「植木鉢受け皿」でも7月下旬から幼虫の回収が開始となった時期が重なっていた。9月が最

後の回収となり成虫の寿命が約1箇月であることから、著者が発見できなかった「植木鉢受け皿」周辺に別の発生源があり、そこから羽化した成虫が捕集された可能性があると思われた。また、毎週木曜日のLT捕集網回収時に幼虫を捕集し、中の水は全て持ち帰ったが、卵の一部が残り、再度、水やりにて水が増加し、孵化ができたものがあった可能性も考えられた。

## 2. 直接採取法の捕集成績

表4のとおりであった。甲府市内では3属4種、韮崎市内では2属3種の蚊幼虫・蛹の発生を確認した。

### 甲府市

甲府市北口では6月15日に「水槽」からヤマトヤブカ幼虫、8月20日「瓶」からヒトスジシマカ幼虫が捕集された。当所構内では落ち葉と雨水が溜まった状態の空プランター2個において幼虫の発生を確認した。詳細は表5に示した。オオクロヤブカ幼虫の直接採取法での捕集は今回がはじめてであり、また同じ場所から2回ではあるが、2属3種の幼虫の捕集経験もはじめてだった。2箇所とも隣接する場所に置かれていた。今回の調査により、廃棄状態のプランターも蚊類の発生源となっている現状を確認した。回収時の貯留水2箇所ともに、土などの沈殿物が混入して不透明な茶色であった。振動を与えると幼虫・蛹が落ち葉の下に素早く移動し隠れる様子をしばしば目撃した。捕集時には多数のヒトスジシマカ成虫が飛来した。

### 韮崎市

峡北合同庁舎敷地内の植木鉢受け皿から7月下旬から9月上旬までに計5回ヒトスジシマカ幼虫の発生を確認した。

韮崎市民家Bでは、「水槽」と「水桶」の2箇所で、異なる結果を得ることができた。各採取場所は約50m離れており中間に家屋がある。周辺環境の違いは「水槽」付近には3頭の成犬が飼育されており、様々な樹木が植えられていて、池の中には落ち葉が沈んでいる状態であった。またハナアブ類幼虫が多数生息していた。「水桶」は雨水のみが溜まった状態であり、「水槽」に比べて開放的な空間に設置されていた。韮崎市においても発生源および発生種の違いが得られ、貴重な経験となった。

ヤマトヤブカ幼虫が生息していた場所の水域の目視での様子はほとんど濁りがなく着色も透明から短黄色であった。

緒方<sup>5)</sup>は横浜市泉区において蚊の捕集調査の中で、雨水槽の底部に土が蓄積する構造であることがヒトスジシマ

カの発生源となっていることを報告しているように、ヒスジシマカの場合は泥が沈殿しており、水位がさほど高くない水域で、狭い場所が発生源であることを再度確認することとなった。アカイエカ群幼虫はこれまで調査において、当所構内の「側溝水」から採取されていたが、今回は捕集されなかった。しかし今回、「空プランター」や「水槽」からの捕集ができ、今後の調査水域の選定に大いに役立つと考えられた。

### 3. OTの捕集成績

5月11日にトラップを当所構内2箇所に設置し、調査を開始した。21日後の「動物舎南」においてはじめて幼虫を目視で確認し、回収後、飼育したところヒスジシマカであった。その後もトラップ回収は8月29日まで計5回おこなうことができた。「木陰」においても39日後の6月に1回目の回収をおこない、7月31日にも再度、幼虫発生を確認した。2箇所の定点において回収された幼虫は全てがヒスジシマカであった。設置から回収までの期間は平均して約22日で、最短では15日後に回収したケースが2回あった。

甲府市北口、韮崎市民家Aおよび民家Bでは幼虫発生を確認することができなかった。甲府市北口では、LT以外に捕集網での捕集を頻繁におこなったこと、「瓶」および「水槽」などで幼虫の発生を確認しており、蚊成虫にとってはOTよりも産卵に適していたためと思われる。また、民家Bにおいても同様のことが影響した可能性があると推測された。アカイエカの産卵を太田ら<sup>9)</sup>は成田空港敷地内での調査で確認をしている。甲府市北口のLT法で優位種であるが、OTでの回収を未だ経験していないことから、定点を増やして、LT法を使用できない環境の蚊類の生息調査を実施していきたい。

### 4. 人囿法の捕集成績

甲府市北口および当所での捕集成績を表6、7、図7に、捕集数の推移を図6に示した。総捕集数は北口では83頭、当所では34頭であった。捕集種は北口が2属5種、当所がヒスジシマカ1属1種であった。最も捕集数が多かったのは北口では7月5日の15頭、当所では8月26日の7頭であった。

北口ではLT法で捕集されなかったコガタアカイエカが1頭、9月14日午後には捕集された。捕集種の割合は図8に示したとおりであった。ヒスジシマカが53頭(雄22, 雌31)と過半数を占めた。6月上旬から7月の期間に捕集されたオオクロヤブカは全てが雄であった。その他の種は雄雌ともに同数が捕集された、コガタアカイエカは全てが雌であった。

北口での人囿法は主に平日は午後6時30分頃を中心として、休日は午後3時頃を中心として日没前に実施したことから、活動時間が日没前など薄暗い時間帯が活発であるとされるヒスジシマカが63.9%と過半数を越える結果となり、夜間活動性のアカイエカ群の割合が16.9%とLTの約1/3の捕集にとどまったと推測された。

当所での調査時間帯を比較したが、午前16頭、午後18頭と差はみられなかった。また全てが雌成虫であった。調査をおこなう時間帯の影響を大きく受ける可能性がある方法であるが、夜間の捕集など、可能な限り調査を続行していきたいと考えている。

余談になるが、当所構内での捕集の際に、白衣を着衣していると黒色の顔や頭髮に向かってくるが、黒色の服を着ていくと身体を中心に手足などを刺されることを経験した。荒木<sup>7)</sup>は人種では、黒人、黄色人、白人の順になることを著書の中で紹介している。2006年のOTの色を黄色に変えて設置したが、とくに黒色が優位との結果を得ることはできなかった。蚊の誘引原因として、二酸化炭素や体温、乳酸などがいわれていることから、今回の現象が色だけによるものとは限らないことを追記する。

### 5. プラスチック容器での捕集成績

6月11日に当所敷地内の動物舎脇にプラスチック容器を設置した。33日後の7月14日にヤマトヤブカ幼虫とヒスジシマカ幼虫、1属2種が回収された。その後も表8に示したとおりヒスジシマカ幼虫の回収を計8回おこなった。なお、昨年調査においてもヒスジシマカ幼虫とヤマトヤブカ幼虫が回収されている。

### 6. WNV媒介蚊

韮崎市ではアカイエカ群、コガタアカイエカ、オオクロヤブカ、ヒスジシマカ、ヤマトヤブカの2属5種の生息が確認された。甲府市では新たな種の生息を確認することはなかった。

### まとめ

1. 甲府市では2属5種、韮崎市では3属6種の蚊の生息が確認された。
2. LT法では甲府市では昨年の調査と同様にアカイエカ群、ヒスジシマカが優先種であった。澤邊ら<sup>9)</sup>が述べているように、国内にWNVが持ち込まれた場合、都市部で主に媒介をおこなうと予想される蚊類はヒスジシマカ、アカイエカ群であるとこれまでの調査結果と同様に

## 引用文献

推測された。これに対して韮崎市内2箇所の捕集種の割合が異なった傾向を得たことにより、ヒトスジシマカ、アカイエカ群、コガタアカイエカの2属3種が優先種の候補であると思われたが、今後の同エリア周辺の調査により明らかにしていきたい。

3. LTでの総捕集数は甲府市68頭(雄35,雌33)で過去2年間の結果とほぼ同数程度の捕集となった。韮崎市で32頭(雄10,雌22)であった。
4. 直接採取法により甲府市では2属4種、韮崎市では2属3種が捕集された。今回の調査によりオオクロヤブカ幼虫の捕集が当所敷地内「プランター」からなされた。また、韮崎市では「水桶」から頻りにヤマトヤブカ幼虫が捕集されたことから、甲府と同様に注意が必要な種であると思われた。
5. OT法では、今回も甲府市ではヒトスジシマカのみ捕集となった。また、当所敷地内に設置したプラスチック容器からはヒトスジシマカ、ヤマトヤブカの1属2種が捕集された。
6. 捕集網を使用する捕集方法では甲府市北口で83頭、当所で34頭の蚊成虫の捕集がおこなえたことから、今後の調査に活用していきたい。
7. WNV媒介蚊は甲府市では今年度の調査では新たな種の生息を確認することはなかった。韮崎市では3属5種の生息を確認することができた。

- 1) 高橋史恵ら: 甲府市および周辺地域における蚊の生息調査について, 山梨県衛公研年報, 49, 43~48(2005)
- 2) 高橋史恵: 甲府市および躰沢町における蚊の捕集成績(2006~2007), 山梨県衛公研年報, 50, 14~21(2007)
- 3) 佐々学, 栗原敦, 植村清 共著: 蚊の科学, 図鑑の北隆館, (1976)
- 4) ウエストナイル熱媒介蚊研究会: ウエストナイル熱媒介蚊対策に対するガイドライン(財)日本環境衛生センター, (2003)
- 5) 緒方一喜: 地区衛生組織の蚊防除への取り組み, 第49回ペストコントロールフォーラム(神奈川大会)抄録集, 97~100(2009)
- 6) 太田良夫ら: 蚊の採取方法に関する検討, 成田空港検疫所HP, 衛生課厚生労働 <http://www.forth.go.jp/keneki/narita/> (2000)
- 7) 荒木修著: 蚊の科学, 日刊工業新聞社, (2007)
- 8) 澤邊京子ら: ウエストナイル熱媒介蚊と吸血嗜好性, フォルマシア, 40, 527~531, (2004)
- 9) 津田良夫ら: 都市部における疾病媒介蚊の発生状況調査ドライアイストラップを用いた2年間の調査結果

## 謝 辞

LT法での蚊成虫の捕集にご協力くださった中北地域県民センター, 中北福祉保健事務所峡北支所の職員の皆様に厚くお礼申し上げます。

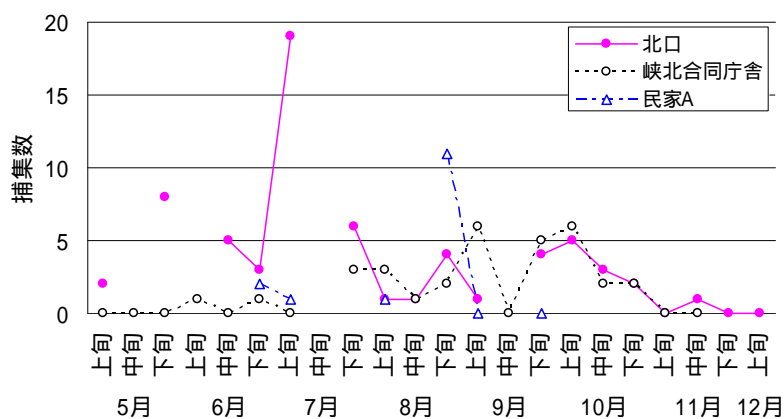


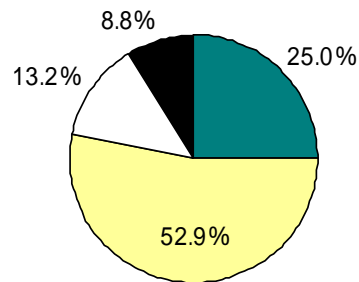
図1 LT捕集数の推移(甲府市・韮崎市)



写真1 アカイエカ群雌成虫

表1 LT 捕集成績(北口)

設置 月日	ヒトスジ シマカ	アカ イエカ群	ヤマト ヤブカ	オオクロ ヤブカ	合計
5/8			1	1	2
5/22	2	1	1	1	5
5/29	1	1		1	3
6/5		1		2	3
6/11	2				2
6/12		3			3
6/17					0
6/26	1		2		3
7/1	3	3	1		7
7/10	1	11			12
7/23		3			3
7/30	1	1	1		3
8/7		1			1
8/13	1				1
8/21		1			1
8/28		3			3
9/4					0
9/10	1				1
9/23	2	2			4
10/1	1	3		1	5
10/8					0
10/16	1	1		1	3
10/23		1			1
10/30				1	1
11/6					0
11/12				1	1
11/24					0
12/3					0
小計	17	36	6	9	68
%	52.9	52.9	8.8	13.2	



■ ヒトスジシマカ □ アカイエカ群 ○ オオクロヤブカ ■ ヤマトヤブカ

図2 LT 捕集種の割合(北口)

表2 LT 捕集成績(峡北合同庁舎)

設置 月日	ヒトスジ シマカ	アカ イエカ群	コガタ アカエイカ	オオクロ ヤブカ	ハマダラカ 属の1種	合計
5/14						0
5/21						0
5/28						0
6/4				1		1
6/11						0
6/18						0
6/25		1				1
7/3						0
7/9						0
7/23		1				1
7/30	2					2
8/6	3					3
8/13	1					1
8/27	1	1				2
9/3		1				1
9/10	3	1			1	5
9/17						0
9/24	1	1		1	2	5
10/1	1	1		1		3
10/8		1		2		3
10/15				2		2
10/22			1			1
10/29		1				1
11/5						0
11/12						0
小計	12	9	1	7	3	32
%	37.5	28.1	3.1	21.9	9.4	

表3 LT 捕集成績(民家 A)

設置 月日	ヒトスジ シマカ	アカ イエカ群	コガタ アカエイカ	ハマダラカ 属の1種	合計
6/24		2			2
7/1		1			1
8/7	1				1
8/24		1	9	1	11
9/8					0
9/25					0
小計	1	4	9	1	15
%	6.7	26.6	60.0	6.7	

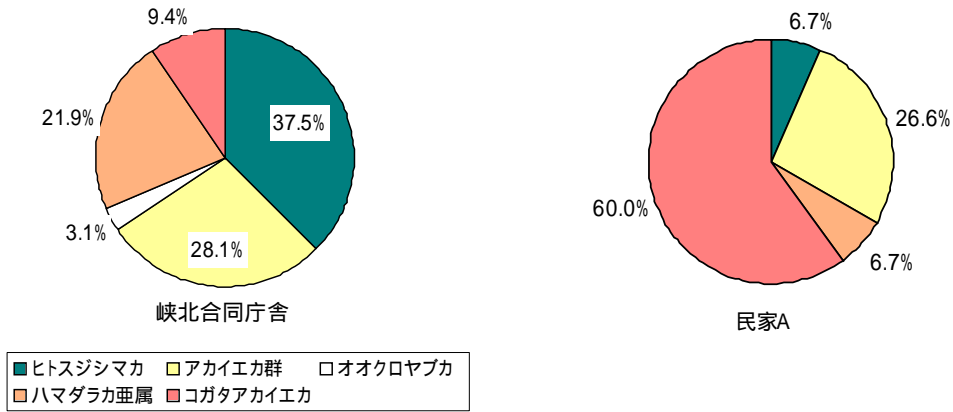


図3 LT 捕集種の割合 ( 韮崎市 )

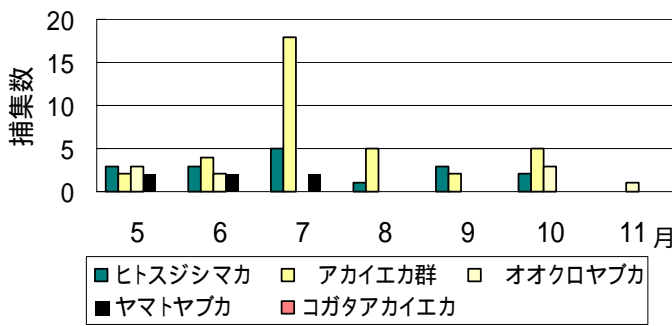


図4 LT捕集数の推移(北口)



写真2 アカイエカ群幼虫

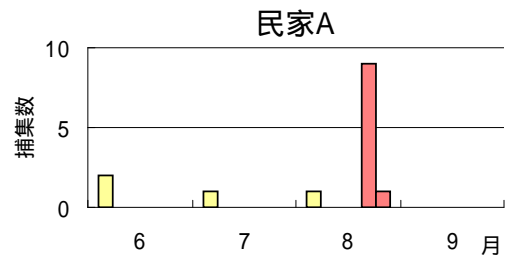
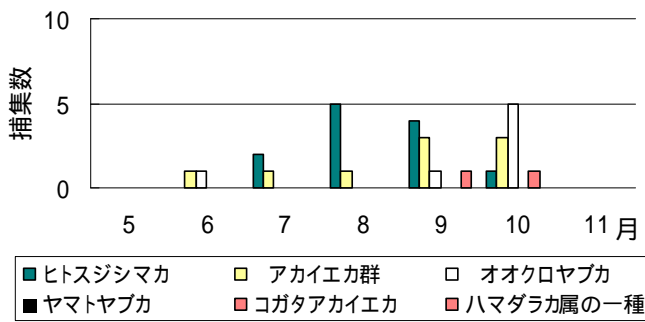


図5 LT捕集数の推移( 峡北合同庁舎・民家A )

表4 直接採取法の捕集成績

市町村名	甲府市				韮崎市		
	北口		当所		峡北合同庁舎	民家B	
定点			プランター		植木鉢 受け皿	水槽	水桶
場所	水槽	瓶	A	B			
捕集種							
アカイエカ群			123	2		50	
ヒトスジシマカ		103	5	1	22		
ヤマトヤブカ	26					79	580
オオクロヤブカ				3			



表5 直接採取(プランター)捕集成績

捕集 月日	捕集種	定 点	
		A	B
10/1	アカイエカ群	123	
	ヒトスジシマカ	5	
10/6	オオクロヤブカ		3
	アカイエカ群		2
10/8	ヒトスジシマカ		1



写真3 ヒトスジシマカ雌成虫

表6 人囿法の捕集成績(北口)

捕集 月日	ヒトスジ シマカ	アカ イエカ群	ヤマト ヤブカ	オオクロ ヤブカ	コガタアカ イエカ	合計
6/28	5	1		1		7
7/1	1					1
7/3	1			2		3
7/5	5	9		1		15
7/7	2			1		3
7/12		1				1
7/14	3	2				5
8/2	1		4			5
8/5	1					1
8/8						0
8/10	3		3			6
8/11	2					2
8/13						0
8/14						0
8/15	1		1			2
8/16	1					1
8/17	1					1
8/19	1					1
8/21						0
9/1	2		2			4
9/14	1				1	2
9/20	2					2
10/4	1					1
10/13	2					2
10/19	9					9
10/26	7	1				8
10/27	1					1
11/21						0
小計	53	14	10	5	1	83
%	63.9	16.9	12.0	6.0	1.2	

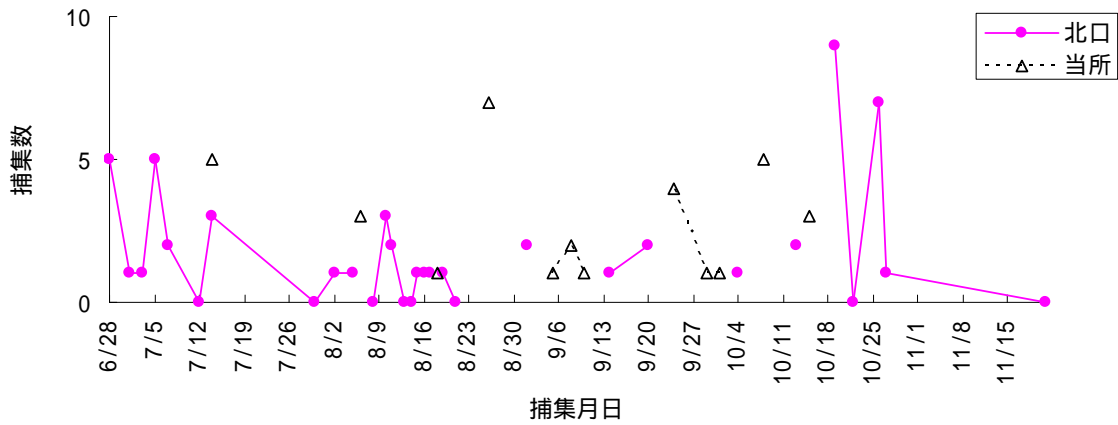


図6 人囿法捕集数の推移

表7 人囿法の捕集成績(当所)

捕集月日	ヒトスジシマカ
7/14	5
7/30	
8/6	3
8/18	1
8/26	7
9/5	1
9/8	2
9/10	1
9/24	4
9/29	1
10/1	1
10/8	5
10/15	3
10/22	
合計	34

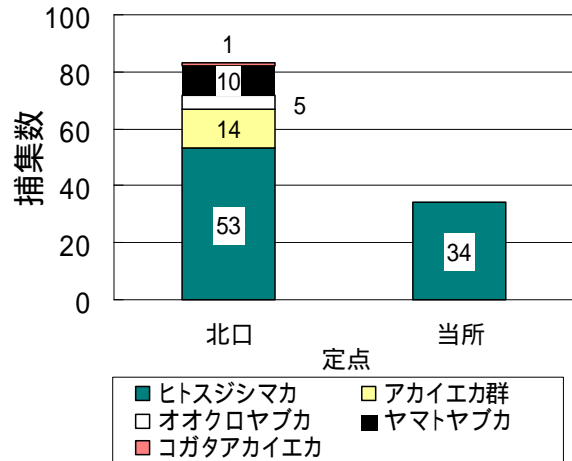


図7 人囿法捕集成績(甲府市)

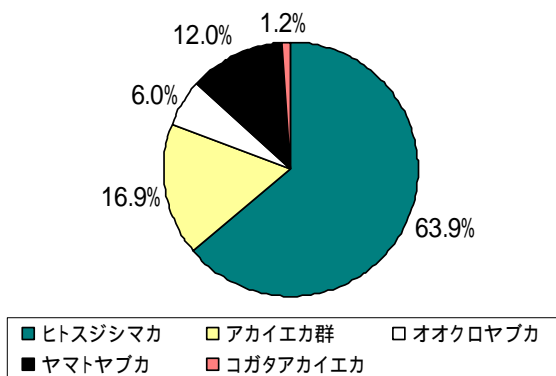


図8 人囿法捕集種の割合

表8 プラスチック容器の捕集成績

捕集種 捕集月日	ヒトスジシマカ	ヤマトヤブカ
7/14	2	2
7/22	17	4
7/24	24	18
7/28	32	36
7/31	26	47
8/6	46	30
8/14		1
8/18	1	1